



須磨寺 本堂 大壇

青葉の笛だより

第23号

平成30年 正月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

ご挨拶

平成三十年は戊戌歳です。よく似た字が並んでいます。どちらも武器である戈を本にした字のようです。間違えなように気をつけなければなりません。

さて、犬は十二支の動物の中で、一番人間に身近で親しみ深い動物であり、古くは縄文時代から共に生活をしてきたよう。人骨の近くで完全な形の犬の骨が見つかっており、人の手によって葬られたことがわかっています。本当に遠い昔から、人と犬は家族のような存在だったのでしょう。

犬はお大師様とも深い縁があります。それは、唐の国からお帰りになったお大師様が、「この唐で学んだ密教を大成し、日本に広げるための聖地に導かれよ。」と、唐でお投げになった三鈷杵の行方を捜しておられた時、高野山の麓で出会った獵師が「私はその場所を知って

いる。この者たちに案内させよう。」と言って、連れていた白黒二匹の犬に高野山まで案内をさせたという話は、よくご存知だと思えます。

また、お大師様が、「笑」という字が思い出せずに困っておられると、竹籠に頭を突っ込んで、おかしい動きをするオス犬があり、それを見たお大師様は思わず笑ってしまったが、「笑」という字は竹の下に犬と書くという事を思い出されました。お大師様は、お礼を込めて犬の頭から竹籠を外された時に、後ろ足が一本である事に気づかれました。お大師様はそれでは不便だろうと、囲炉裏の五徳の足の一本を取り、それを加持して犬の後ろ足にし、これから先に生まれるオス犬みんなが四本足になるようにと祈り、体につけて下さいました。犬は大層喜び、その時以来このような勿体無い足を活してはいけないうと、オス犬はオシツコをする時に足を上げるようになり、五徳の足は三本になったのだそうです。

私たちもお大師様のお慈悲を沢山頂戴しています。平成三十年も「同行二人」のお気持ち忘れず、感謝の気持ちを保持して過ごしてまいりましょう。

大本山須磨寺 貫主

小池 弘三

合掌

十三佛に見守られて(7)

―地蔵菩薩(上)―

摩耶山天上寺貫主 伊藤 浄厳

地蔵菩薩の「地蔵」とは「大地の蔵」とか「大地の母胎」という意味で、この菩薩は大地のあらゆる徳(恵み)を備え持っていることを象徴的に言い表わしています。その大地には五つの徳があるといわれています。

- ① 大地は重いものでも軽いものでも、大きなものでも小さなものでも、すべてのものを等しく乗せて支えることができる。
- ② 大地はありとあらゆる動物や植物、さらに鉱物なども生み出す。
- ③ 大地は生み出したすべてのものを養育する。
- ④ 大地はものが成熟するまで、その時期を辛抱強く待っている。
- ⑤ 大地はすべてのものを包容する力を持つっている。

さて、この地蔵菩薩には、さまざまに働きやご利益が説かれて、広く信仰されています。とりわけ、六道に迷う一切衆生の苦を除き、福德(福利)を与えることを本願(誓願)とされている菩薩(六道能化の菩薩)で、代受苦の菩薩として信仰されています。

六道とは、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天の六つの世界のことで、一切の衆生(特に人間)は、みな生前も死後もこの六つの迷いと苦しみの世界をさ迷い、経巡(めぐも)っているというのです。六道について少し説明しておきましょう。

《六道》―六趣ともいう。衆生が自ら行った行為(業)によって趣き生まれる(輪廻転生する)六種の世界のこと。(六道輪廻)

- (1)、地獄―那落・奈落ともいい、意識して地獄という。極めて重い悪業(殺生や盗みなど最悪の行為)をなした衆生が趣き生ずる最も恐ろしいところで、世界の地下深いところにあるという。閻魔大王の支配するところで、配下の獄卒などが、さまざまに拷問によって、衆生に耐え難い苦しみを与えるという、極苦の世界である。
- (2)、餓鬼―一般的には悪業(悪い行ない)の報いとして餓鬼道に堕ちた亡者の世界で、常に飢えや渴きなどの苦しみに満ちた恐ろしい世界のことです。
- (3)、畜生―人に飼われて、酷使され、食用にされるものの世界。悪業をなし、愚痴(おろかさ)の多いものがこの世界に生まれるとされている。
- (4)、修羅(阿修羅)―怒りと争いの絶えない世界で、常に殺戮や強奪などの暴行が横行している恐怖の世界であります。(なお、阿修羅は嵐を擬人化したインドの神で、帝釈天と争う鬼神のこと。後に仏教に取り入れられて護法神の一つとなる。)
- (5)、人(人間)―善いことをしたり、

悪いことをしたりして、善悪相半ばする人間の世界。この世界では仏の教えに巡り合える幸運に恵まれるが、寿命は短かく、またその機会は極めて稀であるといわれている。

- (6)、天(天界)―天は神のことであるが、ここでは神々(諸天)の住むところ、すなわち天界のことである。この世界は人間世界から見れば、とても恵まれて幸せなところと思われるが、その幸せも長くは続きません。天に生まれても、次第に老齢になり、衰えてついには死亡してしまうのです。主な衰えは「天人五衰」といって、天界の衆生が寿命尽きて死ぬときに示す、五種の徴候のことです。大小二つの五衰が説かれています。

- (1) 大の五衰―①衣服が垢でよごれる。②頭上を飾る花々の冠が萎れてしまう。③身体がよごれて臭くなる。④腋の下から汗が流れ出るようになる。⑤所在なく鬱々として、楽しむことがなくなる。この五つが見られると、必ず死を招くことになる。
 - (2)、小の五衰―①楽しく明るい声が発せられない。②身体の輝きが急になくなってしまふ。③沐浴しても、水が身体に付着して流れない。④まわりの光景が気になり、執着して迷いが起きる。⑤視力がなくなり、まばたきばかりするようになる。
- このように、天界は六道の中で

は最高の世界ではあるが、そこに生まれた天人といっても、悟りを開いた人(すなわち仏)ではありません。従って、幸せでよい思いをしても、それはほんの一瞬の出来事なのであります。

ところで、地蔵菩薩の慈悲の働きは、さまざまに説かれています。だが、その中の最たる働きは《代受苦》(大悲代受苦)ともいう慈悲行であります。代受苦とは、他人の苦しみを代わって引き受けること。一切衆生の苦悩を自らの苦として受けとめ、その救済を第一とする菩薩の慈悲心に基づく行為であります。それは地獄にまで降りて苦しみに喘ぐ人々をも救済するという地蔵菩薩の究極の慈悲行といえます。

この地蔵菩薩の代受苦は、いかなる罪悪深重の衆生でも、苦悩する人達のいる限り、一人も見捨てないという慈悲心であります。そのため、地蔵菩薩は自分の悟りに見向きもせず、五濁悪世のこの世に留まり、人々を救済することを何よりも優先するという誓願を立てておられるのです。このように、地蔵菩薩は浄土に趣かず、我々と同じくこの世(娑婆世界)にあつて衆生済度の慈悲行に専念されているのであります。そのため頭を剃り、質素な衣を身に纏った普通の修行僧の姿をされているのであります。(僧形・声聞形)

(付記―地蔵菩薩は私たちに殊のほか身近な仏さまなので、少し詳しく説明を加えました。次回にこの続きを述べてみたいと思います。)

除夜の鐘と 千巻心経法要のお知らせ

平成二十九年十二月三十一日、午後十一時四十五分より、例年通り、参拝者の皆様に除夜の鐘を撞いていただきます。先着百八名の方々には、記念品の特別絵馬を授与します。百八番目までの整理券は、午後九時半に鐘撞き堂前にて配布します。

百九番目以降の方も、午前二時までは自由に鐘を撞いていただくことができます。

大晦日の夜、当山境内にて、清らかな鐘の音と共に、旧年中の煩惱を払い、清々しい気持ちで新しい年をお迎え下さい。

また、同時刻より、護摩堂におきまして、千巻心経法要を執り行います。



当山管長導師のもと、旧年の厄を払い、新たな気持ちで新年を迎えられるよう、太鼓の音に合わせ、般若心経を唱えます。

新しい年を迎えるに当たって、旧年にも増して皆で助け合いたい、仏様の智慧をいただき、明るい気持ちで過ごしていけるよう共にご祈念したいと思っております。

修正会のお知らせ

平成三十年一月一日午後二時より、当山本堂におきまして、新春開運修正会（大般若転読法要）を執り行います。

導師が経題を唱えた後に、職衆各々が経本を展開する「転読」という特殊な読みかたで、総数六百巻に及ぶ長大なお経「大般若経」を読誦します。その功力をもって皆様の家内安全、厄除開運から、国家安穩、世界平和に至るまで、一年間の無事を祈念します。

祈願札を申し込まれた方には、当日本堂にお入りいただき、導師の加持した経本で身体を加持いたします。

新しい一年のご多幸を、皆様と共にご祈念したいと思います。



授与品

五千元 祈願札（木札）・破魔矢・

数珠

三千元 祈願札（紙札）・数珠

申込期限

一月一日正午まで

須磨寺事務所にて承ります。

頼政薬師寺 鬼追い式

来る平成三十年一月八日午前十一時半より頼政薬師寺において「鬼追い式」が行われます。

明治以前、頼政薬師寺では、毎年一月八日に薬師上人という、この里の人が集まる儀式があり、座敷に松竹梅の三宝を飾り、その上座には薬師如来をまつり、全員がかみしもを着用して謡曲で興がそえられました。この儀式に参加することによって初めて、村人として認められたと言います。夜には鬼踊りと称して仮面をかぶった鬼たちが里人を狂ったように追い回す鬼追い式が行われていました。この鬼追い式は、非常に有名で、当時の須磨の一番大事な祭りであったと伝えられています。

近年は僧侶が牛王杖で床を叩きながら読経し、地にいる鬼を追い払う儀式が行われ、形を変えてこの伝統行事が受け継がれています。

人々の繁栄と家内安全を祈る、伝統ある頼政薬師寺の鬼追い式には是非お参り下さい。



日時 平成三十年一月八日（月曜日）

十一時半 開白

場所 頼政薬師寺

須磨寺駅から東に徒歩2分

参拝自由

阪神淡路大震災 慰霊法要と奉納コンサート



来る平成三十年一月十七日阪神淡路大震災慰霊法要を執り行います。早朝五時三十分より本堂におきまして、発生時間五時四十六分をまたいでの法要を行います。また、発生時刻には梵鐘を二十一回鳴らし祈りを込めます。そして午前十時より本坊客殿において、慰霊法要を執り行います。今年は、午後一時半よりギターリスト小馬崎達也氏率いるパンゲアによるギターとお琴による慰霊のための奉納演奏が行われます。近年、「激甚災害」に指定される災害が後を絶ちません。あらゆる災害で亡くなられた方々の慰霊と、被災地の復興に祈りを込めます。皆様にはどうかお参りいただきご焼香賜りますようご案内申し上げます。

記

日時

平成三十年
一月十七日(水)

法要	午前五時三十分	本堂
法要	午前十時	本坊客殿
奉納演奏	午後一時三十分	本坊客殿

須磨寺の歴史(二十) — 朱印地

『当山歴代』の慶安元年(一六四八)六月二十七日の記事を見てみると「御朱印頂戴江戸江罷下、華嚴院住持真源(以下略)」という記事があります。これは須磨寺塔頭の住職である真源が江戸に赴いて幕府から御朱印を交付されたという事を書いたものですが、この御朱印とは何かというと、花押の代わりに朱印が押された公的文書(印判状)のことで、江戸時代には幕府が公家や寺社の所領を確定させる際に発給されるもので領地朱印状とも呼ばれています。須磨一帯は幕府の天領であったため幕府からの寄進という形で十六石の寺領を持っていたようです。また正徳元年(一七一)に桜壽院円秀が、享保二年(一七一七)には東林院行快が御朱印改めのために江戸に訪れたという記事があります。

ところで中世の公家や寺社の荘園には守護不入の特権がありました。江戸時代の朱印地はどうかというと、朱印地の領主に司法権と行政権が与えられ、朱印地を統治する権利と義務を有していました。須磨寺はわずか十六石の寺領しか無かった為、それらを行使する組織を作ることができませんでした。ではその場合どうしていたかというと、隣接している大名か天領代官が年貢の取り立てや罪人の取り締まりを行うことになっていて、須磨の場合は『当山歴代』を見てみると元和九年(一六二二)の記事に「地頭尼崎御座ス戸田左門様(略)」と書いていることや、貞享元年(一六八四)の記事に「当村領主青山大膳殿(略)」と書いていることから、この時代は尼崎藩が須磨寺の管理運営に大きく関わっていたことが分かります。※元和三年(一六二七)から寛永十二年(一六三五)まで戸田氏が、寛永十二年(一六三五)から正徳元年(一七一)までは青山氏が尼崎藩主

以上見てみますと朱印地は江戸時代の須磨寺の繁栄に一役買っていて、朱印地を通して幕藩体制の一部になっていたことが分かります。次回以降はその中で須磨寺が他の真言宗寺院とどのような関係を持っていたのかを見ていきます。

星祭り祈禱 須磨寺寒行

星祭りとは、新しい季節を迎える節目である節分（二月三日）に、一年の幸運と厄除け、それぞれの願いや目標に仏様のご加護をいただく祈願のことです。宿曜経によれば、当年星という吉凶を左右する星が一年毎に廻ってきます。これらの星によって定まる吉凶を受け、星回りの良くない年は、悪事災難から免れるように、星回りの善い年はより善い年となるように祈願するのが、星祭り（星供）の習わしです。星の吉凶については、青葉の笛たより裏表紙の数え年早見表をご覧ください。【○】【●】【○】【○】などのマークで吉凶を見ることができます。

須磨寺各寺院でそれぞれ星祭りのご祈禱を行っております。皆様のご多幸と所願成就を至心にお祈りいたします。ここに祈禱のお申込みをご案内いたします。

記

■日時	須磨寺本坊	二月三日	午前十時・午後二時	護摩堂
	須磨寺桜寿院	二月三日	午後一時から四時まで	
	須磨寺蓮生院	二月三日	午後三時	
	貞照寺	二月三日	午前十一時	
■申込み	須磨寺各寺院まで			

※須磨寺では、星祭りの祈願と合わせて、寒行（冬の修業）を行っています。

一月二十八日から二月三日まで毎朝五時十五分から護摩堂で護摩修行を行います。どなたでも寒行にご参加いただけます。ご参加をお待ちしております。



須磨寺本坊 護摩堂



須磨寺 桜寿院

須磨寺先師忌 土砂加持法要

須磨寺では歴代住職を供養する為、毎年二月十二日に「先師忌」として土砂加持法要を行っております。二月十二日は須磨寺前管長小池義人和尚の命日にあたります。義人和尚は平成八年にインドのムンバイで遷化しました。平成三十年は二十三回忌の法要となります。

土砂加持とは、光明真言によって土砂を加持し、その土砂を墓地などに撒くことによって、亡者の諸々の罪報を除き、菩提を成ずる功德ありとする、古式に則った密教法儀です。声明を唱えることを中心とした二時間を越える厳粛な法要となります。神戸市内の真言宗の諸大徳二十名以上のご出仕をいただき、執り行います。

どなた様もご自由に参拝頂けますので、この機会に密教法儀をご体感下さい。

記

■日時	二月十二日 午後三時より
■場所	須磨寺 本坊客殿

大峰山修行を終えて

合田 輝

大峰山寺山上蔵王堂への道

今年九月、小生は大本山須磨寺の僧侶達と修験道の霊場である大峰山（注1）に入峰。

きっかけは、幼少のころからお世話になった先輩、大本山須磨寺塔頭 正覚院 副住職 朝倉経義氏に誘われたことからであった。自分とは無縁と感じていた修行、山にこもって身を律し悟りを開く「修験の世界」とはどのようなものなのかと、五年前から今年で四回目の入山となった。

大峰山の中で修験道の聖地であるのが山上ヶ岳、そして日本で唯一現在も女人禁制の山として有名であり、千三百年前に山岳信仰や仏教が習合して生まれた日本固有の宗教「修験道」の修行の道で、平成十六年には「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産登録されている。

例年、初日に大峰山麓の洞川温泉に宿泊し翌朝、龍泉寺で水行を行い体を清め入峰するのだが、今年は初日から入峰し山頂近くの宿坊に入るといふ事であった。到着するなり龍泉寺水行に入り身が引き締まるとともに、これから修行が始まる不安感に襲われる。

大峰山寺本堂への登山道は整備され、途中にはいくつかの茶屋が設けられている。大峰大橋から一本松茶屋を経てしばらく行くと、「役行者お助け水」と称する水場がある。その

先には油こぼし・鐘掛岩・西の覗きと称される鎖場の難所（表の行場）が続く。

「西の覗き」と称される行場は最近TVでもよく取り上げられており、これは絶壁の縁から命綱をつけて身を乗り出し、仏の世界を垣間見ようとするものである。小職も平成二十六年九月四日に「西の覗き」を経験したが、捨身の行で得るものは自らの仏性に気付き、即身即仏を感じ取る否かであるが、小職はまだまだその域には達していないようだ。

法螺貝の音、そして六根清浄を響かせながら頂上付近の宿坊に到着した時は、体中にさわやかな疲労感と、この上ない充実を感じることは毎年のことである。

宿坊での食事は精進料理で質素ではあるが、心温まる仲間との大切な時間であったことは今も刻まれている。さらに山頂に近い立地にもかかわらずお風呂があり、身も心も癒されるひと時であった。ビジネスマンとして二十二年がむしやりに駆け抜け薄ぺらな達成感を追い求め成功と錯覚し、何一つ社会貢献していない自己主義に嫌悪を感じる夜、宿坊での僧侶たちとの情熱の語りは尽きない。だから今年も入峰しここ

に来ていたのだろうか。

最後に、先日子供を授かること叶いましたのも、偏に大本山須磨寺の皆様のご指導・ご鞭撻そしてこの大峰山修行の賜物と深く感じております。

私欲や煩惱を絶ち、清らかで汚れない境地である「六根清浄の心境」になるにはいつの日かわからないが、お誘いいただける大本山須磨寺の皆様がいらっしゃる限り、大峰山寺山上蔵王堂への道を続けたい。

■（注1）大峰山（おおみねざん）

2004年（平成16年）7月、ユネスコの世界遺産に「紀伊山地の霊場と参詣道」の文化的景観を示す主要な構成要素として史跡「大峰山寺」、史跡「大峯奥駈道」ほかが登録されている。

■参考文献・『週刊 古寺をゆく21 金峯山寺と吉野の名刹』小学館、2001

■引用（アクセス）…11月13日 ウィキペディア <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%B3%A1%E5%B1%E5%A4%BA>



◎ 献金のご報告 ◎ ご献金に感謝申し上げます。

おぎや一献金基金	入金先: 日母おぎや一献金基金	¥51,236 入金日付: H28/12/27	熊本大地震復興支援金	入金先: 熊本地震義援金受付	¥149,000 入金日付: H29/05/18
盲導犬育成基金	入金先: 兵庫県盲導犬協会	¥31,187 入金日付: H28/12/08	福島災害復興支援金	入金先: 福島災害対策本部	¥163,000 入金日付: H29/05/18
犯罪被害者支援基金	入金先: ひょうご被害者支援センター	¥13,072 入金日付: H28/12/15	ネパール大地震復興支援金	入金先: ネパール大使館	¥38,500 入金日付: H29/04/25
熊本大地震復興支援金	入金先: 熊本県共同募金	¥132,000 入金日付: H28/04/27	九州水害復興支援金	入金先: 益城町災害対策本部	¥57,000 入金日付: H29/08/04
熊本大地震復興支援金	入金先: 日本赤十字社	¥350,000 入金日付: H28/12/01	盲導犬育成基金	入金先: 兵庫県盲導犬協会	¥23,807 入金日付: H29/09/28

仏師逍遙

残り福

「一年を三日で稼ぐえびす顔」

巷間にこんな川柳があるように、一月九日の宵えびすに始まり、十日の本えびす十一日の残り福とつづく三日間は、初春の福を求める人の波でどこも大賑わいです。関西とくに阪神間に住む人たち、中でも商いに関わる方々にとつての新年は「えびすさん」から本格的に動き出すようなところがあります。

大阪天王寺に仏像彫刻の工房を構えていた私の父も、今宵えびす神社にお参りを欠かさない一人でしたが、出かけるのは決まっていた残り福の夕刻で、せっかちの父が何故にと、いつも不思議に思っていました。

これはずいぶん後になって、父から聞いた話になります。

時は大正から昭和に変わって二年目、世相が大きく変動する前の静かさの中にあった頃。ところは空高くそびえる通天閣（初代）にほど近い南区（現在の浪速区）。雪が降っていた。

最初は些細な言い合いから口喧嘩になり、収まりがつかず、住み込みで働いていた七つ違いの兄の経営する象牙細工所を飛び出して、二日目の夕方。孝太郎（のちの初代仏師山高松雲）は明けて十九歳。ふりかかる雪の中、寒さはまるで感じていなかった。泊まるころはある。人には好かれるたちで、友人の家の二階に「好きだけいい」と言葉を買っていた。

ただ仕事が無い。

兄のところで一番の腕といわれていた象牙細工なら、すぐにでも迎えてくれる店があったが、兄の手前それは避けたかった。当座のお金は持っていたから、格段あわてることもなく、その日もただなんとなく町を歩いていただけで、「職人求む」の文字にぶつかったのも単なる偶然と言えた。

竹重商店と書かれた看板と、玄関に立てかけられたたくさんの竹竿から竹細工の店と知れた。勿論未経験だが、竹の細工物なら何とかなるという自信が、ガラス戸を引く手にも、来意を告げる声にも、ちからを添えてくれた。

広い三和土（たたき）、十畳を越える板の間に作業台、長短さまざまな竹、道具と削り屑。

応対されたのは、ひとの良さを絵に描いたようなご主人。終始笑顔で孝太郎の話を聞いて、疑いもせず道具と竹を揃えて、手で促されたのは使い込まれた作業台のひとつ。机の表面に残る年月を語る疵跡に惚れ惚れと見とれていると、

「これ作ってもらえませんか」

と、手渡されたのは帆掛け船をあしらった爪楊枝入れ。

腕試しと言うこと。

これなら何とかかなると思って座り込んだ。

その様子を見たご主人は

「今からえびすさんにお参りするよって、その間留守するさかい頼んまつさ」

とご家族ともども出て行かれた。

作業場にひとり、胡坐をかいて道具を持ち、仕事に取り掛かって、初めてその日が残り福だったことを思い出した。

からころからころ、表の通りをお参りの人の下駄の音や、楽しそうな話声が続いて

いた。

裸電球に照らされた板の間に、寒さが主のような顔で座っている。その部屋に一人きり。子供の頃のように竹を削っていることにまるで悲壮感は沸かず、むしろ膝の上に溜まる竹の削り屑を楽しんでいる自分を感じながら、幾ばくかの時が過ぎて。

ご主人一家が帰着されたときには、机の上に帆掛け舟が三つ出来上がっていた。

「どこで仕事してはったんでっか」

ご主人のその一言で採用が決まった。

その夜の大阪は珍しいくらいに牡丹雪で、今宵のえびすさまは残り福を求める人たちの上に、ひきもきらず、真綿のような幸いを降らせていたという。

父が彫刻家を目指して、故郷の松山を後にしたのは、十六歳の時。象牙細工を二年と少し、竹細工の職人で居たのは一年と八ヶ月。

品評会に出展した竹細工に目を止めた方の紹介で、二十一歳のとき、京仏師松井幸徳師に出会って即日弟子入り、五十年にわたる仏像彫刻の道に。

仏師と言う職業に巡り会えた幸せを口にすると、この世でいただいたご縁の大きさと、この世に返しきれぬ感謝の思いを、ことあるごとに口にしていました。

残り福のお参りから帰って、工房の隅に小さな鯛のついたささやかな宝笹を飾りながら

「今年もええ残りもんもろた」

そうつぶやく声が、耳の奥に今も聞こえます。

須磨寺大仏師 山高 龍雲

平成30年 年間行事 予定表

1月

- 1日(元旦)14時
開運修正会(大般若転読) 須磨寺本堂
- 3ヶ日 10・12・14時(元日のみ15時)
正月特別護摩祈禱 本坊護摩堂
- 8日 11時半 薬師寺鬼追い式 頼政薬師寺
- 17日 5時30分 大震災物故者慰霊法要 須磨寺本堂
10時 大震災物故者慰霊法要 本坊客殿
- 28日～2月3日 5時15分
寒行(星祭護摩祈禱) 本坊護摩堂

2月

- 3日 10・14時 節分星祭護摩祈禱 本坊護摩堂
14時 節分星祭祈禱 蓮生院
14時 節分星祭祈禱 桜寿院
- 12日 15時 須磨寺先師忌土砂加持法要 本坊客殿

3月

- 3日 14時 敦盛祭 須磨浦公園 敦盛塚
- 11日 14時30分 東日本大震災
自然災害物故者慰霊法要
- 18日～24日 彼岸会(特別護摩祈禱)
- 23日 14時 平敦盛・源平戦士追悼法要 須磨寺本堂

4月

- 6日～8日 花まつり
- 7日 13時 十三まいり
- 17日 9・12・15時 青葉殿 納骨供養祭

6月

- 15日 10時 弘法大師降誕会 本坊大師堂

7月

- 30日 子供寺子屋修行

8月

- 9日 18時 四万六千日法要(みあかり観音)
- 12日～15日 盂蘭盆会
- 15日 10時 盆大施餓鬼法要(本坊) 本坊客殿
- 17日 9・12・15時 青葉殿盂蘭盆会法要 青葉殿
- 19日 4時 盆大施餓鬼法要(桜寿院) 桜寿院本堂
- 20日 14時 盆大施餓鬼法要(蓮生院) 蓮生院本堂

9月

- 20日～26日 彼岸会(特別護摩祈禱)

10月

- 7日 シベリア戦没者慰霊祭 シベリア慰霊碑

11月

- 23日 11時 須磨の火祭り 柴燈護摩 本坊

12月

- 31日 23時45分
千巻心経護摩法要 本坊護摩堂
除夜の鐘 鐘楼堂
(21時30分 除夜の鐘 整理券配布)

- 毎月18日 10時 写経会 本坊客殿
- 毎月20・21日 お大師さん(縁日)
- 毎月3・8・13・18・20・21・23・28日 10時 護摩祈禱

平成30年 年忌数え年早見表

いぬ	とり	さる	ひつじ	うま	み	たつ	う	とら	うし	ね	い
戌	酉	申	未	午	巳	辰	卯	寅	丑	子	亥
平成30年	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年	平成19年
1 ● 羅喉星	2 ○ 土曜星	3 ● 水曜星	4 ○ 金曜星	5 ○ 日曜星	6 ● 火曜星	7 ● 計都星	8 ○ 月曜星	9 ○ 木曜星	10 ● 羅喉星	11 ○ 土曜星	12 ○ 水曜星
平成18年	平成17年	平成16年	平成15年	平成14年	平成13年	平成12年	平成11年	平成10年	平成9年	平成8年	平成7年
13 ○ 金曜星	14 ○ 日曜星	15 ● 火曜星	16 ● 計都星	17 ○ 月曜星	18 ○ 木曜星	19 ● 羅喉星	20 ○ 土曜星	21 ○ 水曜星	22 ○ 金曜星	23 ○ 日曜星	24 ○ 火曜星
平成6年	平成5年	平成4年	平成3年	平成2年	平成元年	昭和63年	昭和62年	昭和61年	昭和60年	昭和59年	昭和58年
25 ● 計都星	26 ○ 月曜星	27 ○ 木曜星	28 ○ 羅喉星	29 ○ 土曜星	30 ○ 水曜星	31 ○ 金曜星	32 ○ 日曜星	33 ○ 火曜星	34 ○ 計都星	35 ○ 月曜星	36 ○ 木曜星
昭和57年	昭和56年	昭和55年	昭和54年	昭和53年	昭和52年	昭和51年	昭和50年	昭和49年	昭和48年	昭和47年	昭和46年
37 ○ 羅喉星	38 ○ 土曜星	39 ○ 水曜星	40 ○ 金曜星	41 ○ 日曜星	42 ○ 火曜星	43 ○ 計都星	44 ○ 月曜星	45 ○ 木曜星	46 ○ 羅喉星	47 ○ 土曜星	48 ○ 水曜星
昭和45年	昭和44年	昭和43年	昭和42年	昭和41年	昭和40年	昭和39年	昭和38年	昭和37年	昭和36年	昭和35年	昭和34年
49 ○ 金曜星	50 ○ 日曜星	51 ○ 火曜星	52 ○ 計都星	53 ○ 月曜星	54 ○ 木曜星	55 ○ 羅喉星	56 ○ 土曜星	57 ○ 水曜星	58 ○ 金曜星	59 ○ 日曜星	60 ○ 火曜星
昭和33年	昭和32年	昭和31年	昭和30年	昭和29年	昭和28年	昭和27年	昭和26年	昭和25年	昭和24年	昭和23年	昭和22年
61 ○ 計都星	62 ○ 月曜星	63 ○ 木曜星	64 ○ 羅喉星	65 ○ 土曜星	66 ○ 水曜星	67 ○ 金曜星	68 ○ 日曜星	69 ○ 火曜星	70 ○ 計都星	71 ○ 月曜星	72 ○ 木曜星
昭和21年	昭和20年	昭和19年	昭和18年	昭和17年	昭和16年	昭和15年	昭和14年	昭和13年	昭和12年	昭和11年	昭和10年
73 ○ 羅喉星	74 ○ 土曜星	75 ○ 水曜星	76 ○ 金曜星	77 ○ 日曜星	78 ○ 火曜星	79 ○ 計都星	80 ○ 月曜星	81 ○ 木曜星	82 ○ 羅喉星	83 ○ 土曜星	84 ○ 水曜星
昭和9年	昭和8年	昭和7年	昭和6年	昭和5年	昭和4年	昭和3年	昭和2年	昭和元年	大正14年	大正13年	大正12年
85 ○ 金曜星	86 ○ 日曜星	87 ○ 火曜星	88 ○ 計都星	89 ○ 月曜星	90 ○ 木曜星	91 ○ 羅喉星	92 ○ 土曜星	93 ○ 水曜星	94 ○ 金曜星	95 ○ 日曜星	96 ○ 火曜星
大正11年	大正10年	大正9年	大正8年	【大厄】 男性：41歳・42歳・43歳 女性：32歳・33歳・34歳							
97 ○ 計都星	98 ○ 月曜星	99 ○ 木曜星	100 ○ 羅喉星								

平成30年の当たり星の吉凶表

○	○	●	●	○	●	●	●	●	●
大 木曜星	大 月曜星	大 計都星	大 火曜星	大 日曜星	半 金曜星	末 水曜星	半 土曜星	大 羅喉星	九曜星
この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	左記をよく心得て常に信仰と努力とを忘れてはなりません。 「九曜星は数え年早見表を参照」

平成三十年 年忌一覽

- 一周忌 平成二十九年亡 二十五回忌 平成六年亡
- 三回忌 平成二十八年亡 二十七回忌 平成四年亡
- 七回忌 平成二十四年亡 三十三回忌 昭和六十一年亡
- 十三回忌 平成十八年亡 三十七回忌 昭和五十七年亡
- 十七回忌 平成十四年亡 五十回忌 昭和四十四年亡
- 二十三回忌 平成八年亡 百回忌 大正八年亡